

2017年度（平成29年度）

院友子弟等特別選考入学試験要項

◎試験当日は、この「入学試験要項」を必ず持参してください。

文 学 部
神道文化学部
法 学 部
経 済 学 部
人間開発学部

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

総合企画部入学課

☎ 03-5466-0141

www.kokugakuin.ac.jp

目 次

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）	1
2. 募集人員・出願資格等	4
3. 通学キャンパス・授業時間帯（平成28年度参考）	6
4. 実施スケジュール	8
5. 受験から入学手続まで	9
6. 選考方法	10
7. 選考のポイント	14
8. 第1次出願書類	18
9. 入学志願票記入例	19
10. 学費等納付金	20
(1) 学費等納付金について 平成28年度学費等納付金額（参考）	
(2) フレックスコースの学費等納付金について（神道文化学部）	
11. 入学前学習講座	21

<提出書類様式>

1次 志望理由書	【様式1】	2次 エントリーシート（※1）	【様式4】
レポート	【様式2】	レポート（※2）	【様式5】
出願資格確認書	【様式3】	添付資料目録・活動報告書（※3）	【様式6・7】
		入学検定料特別措置申請書（該当者のみ）	
		※1 法学部・人間開発学部が提出。	
		※2 法学部が提出。	
		※3 外国語文化学科・人間開発学部が提出。	

【注 意】

1. 出願資格・受付期間・試験科目等について、事前に熟読してください。
2. 身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願する30日前までに必ず入学課(03-5466-0141)に相談してください。

個人情報の取り扱いについて

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。志願にあたって提出された個人情報については、入学志願票の「個人情報の取り扱いについて」をお読みください。

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

※アドミッション・ポリシーについては、本学ホームページでもご確認ください。

文学部

【日本文学科】

日本文学科は、本学ならびに本学部が定める教育方針に基づき、日本文学・日本文化への専門的な学びをふまえて、日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さを身につけ、日本文化を世界に創造的に発信することのできる人材の育成を目的とする。その大きなテーマを「古典作品が読める國學院生」とし、以下の育成の目的を掲げる。

- ①日本語の基本的運用能力を身につける。
- ②日本文学・日本文化に対する理解を深める。
- ③専門的な観点から日本文学・日本文化の研究を通して新たな文化創造に参加する。
- ④日本文学・日本文化の創造的発信を行う。

これらによって、主体的な意欲と能力を持つ人材を育成する。

以上の目的を実現するために、本学科および他の諸学部・学科が開設する授業・各種プログラムに主体的に参加し学修しようとする意欲が求められる。したがって、高等学校での「古典」科目の学習を十分にしておく必要がある。また世界や日本の文化・歴史についての基礎知識や、研究成果を外国へ発信する準備としての「英語」の学習も十分にしておくことが望まれる。

【中国文学科】

高校生活あるいは卒業後の生活の中で、中国の文化や文学の学修に興味・関心を持ち、大学での勉学に明確な目的意識と高い意欲を持つ学生を迎え入れ、活気ある創造的な学問の場を創ることを目指す。高校までの学修では、国語においては古文・漢文の基礎をしっかりと身につけ、世界史においては中国の歴史について、日本史においてはわが国と中国との関係や文化交流について、十分な知識を身につけていることを望む。

【外国語文化学科】

外国語文化学科の目的は、高い外国語能力を持ち、異文化の総合的理解と日本文化の創造的発信を行う人材を養成することである。すなわち、

- ①英語および選択必修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語から選択）を習得し、
- ②外国文化および異文化に対する理解を深め、
- ③比較文化的視点から日本文化に対する理解を新たにし、
- ④日本文化の創造的発信を行う

意欲と能力を持つ人材を育成しようとするものである。

以上の目的を実現するために、本学科および他の諸学部・学科が提供する授業・各種プログラムに積極的に参加し学ぼうとする意欲と、そのための基礎学力のある者を募る。

また、卒業後、本学で修得したことの基礎に立ち、それをさらに深めつつ、後進の指導及び社会貢献を積極的に行おうとする意欲を持つ者が望ましい。

入試制度の違いはあるが、原則は、本学科で十分に学修ができる程度の学力と適性を有する者を受け入れる。そのために、高校までの学習のあらゆる側面に誠実に取り組むことはもちろんであるが、本学科の特性を考慮し、特に以下の諸科目に積極的に取り組み、一定程度の知識を得ておくことが望ましい。

- ・外国語（「英語」）：『コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』、『英語表現Ⅰ・Ⅱ』など
- ・国語：『国語総合』、『現代文』など
- ・社会および文化に関する領域：『世界史B』、『日本史B』、『地理B』など

【史学科】

高校生活あるいは卒業後の生活の中で、特定分野の学修に興味・関心を持ち、大学での勉学・研究に明確な目的意識と高い意欲を持つ学生を迎え入れ、活気ある創造的な学問の場を創ることを目指す。入学者に求められるのは、まず一般的教養と専門的知識を学修するための基礎学力、更にはコミュニケーション能力、自己表現力、理論的思考力、自主的な学びの姿勢である。史学科で学ぶには、次の4分野の1つまたは複数について強い志望を持つことが必要である。①日本史学、②外国史学、③考古学、④地域文化と景観。入学後の学修・

研究においては、史料など歴史的文献を解読することが基本となるため、高校では、古文・漢文、英語、そして日本史・世界史・地理を十分に習得していることが望ましい。

【哲学科】

哲学科は、本学ならびに文学部が定める教育実施方針に基づき、以下のような学生を広く募集し、受け入れる。

- ①建学の精神を理解し、東洋・西洋の哲学思想に対する学修を通して、社会に貢献できる知識と能力を有する学生。
- ②哲学・倫理学および美学・芸術学の学問分野に対する強い志向性を持ち、物事の本質を見極めたいという知的探究心に基づき、論理的思考を通して洞察を深めることができる学生。また、広く文献を渉猟することによって、あるいは他者との対話によって様々な知に触れ、自らの考えを吟味検証することができる学生。
- ③本学科が定める教育課程の学修を十分に理解することのできる基礎的な学力を有する学生。とりわけ入学までの学びにおいては、現代文および英語等の科目を中心とした学習を通して、文献の読解力、論理構築力、思考の表現力等を身に付けることが求められる。

神道文化学部

【神道文化学科】

神道文化学部では、神道を中心として国内外の宗教文化を幅広く学ぶ一貫した教育プログラムのもと、神道と日本文化の継承、その世界に向けての発信に意欲を有する志願者を求めている。

とりわけ院友子弟等特別選考入試を目指す志願者に関しては、高等学校などで習得する科目全般に関する基礎学力はもちろんのこと、日本の伝統宗教や世界のさまざまな宗教文化を、自発的に探究する問題意識、主体的な探究姿勢が要請されよう。単に興味・関心があるというだけでなく、自らが進んで学修できる志向性の高い志願者を求めている点を強調しておきたい。

そのためには、まず何より日本語の読解力・文章表現力が重要である。「国語総合」「現代文」等の学習を通じて、論理的な思考力・表現力をしっかりと身につけてもらいたい。

また、神道文化を学ぶうえでは、日本の歴史や思想、文化などについての総合的な理解も欠かせない。このためには、「日本史A」あるいは「日本史B」の学習が重要である。さらに「倫理」「地理A」「世界史A」等の学習を通じて、宗教文化に根差すさまざまな社会事象・国際問題に対する興味と関心を培うことも大切であろう。外国語については、「英語」ほかの学習によって、基本的な読解力・文法力・会話力を身につけていることが求められる。

法学部

【法律学科（法律専攻・政治専攻）】

この院友子弟等特別選考入学試験制度は、法律学・政治学に強い関心をもつ将来性豊かな学生を、國學院大學法学部に迎え入れることを目的とし、大学の勉学に対する「意欲と熱意（モチベーション）」を評価したいと考えている。そのため、國學院大學法学部では、法律学・政治学という、実社会と結び付きの深い学問分野に高い目的意識をもって臨み、積極的・自発的に勉学に努めることのできる人材を求めて、この入学試験制度を設けている。この入学試験制度においては、レポート執筆および面接において必要となる能力、具体的には、情報収集・整理・分析能力や文章構成力・論理的思考力・表現力の優れた学生を受け入れることとする（詳細については、後記「選考のポイント」(P.16)を参照)。

なお、この入学試験制度は教科型の入学試験制度ではないものの、入学後の教育内容との関係で、高校で勉強する科目のうち、特に次の科目を学習してきて欲しいと考えている。

まず、法律および政治の多くの専門科目に関する基礎的な知識や、日本の法律・政治の歴史や起源についての知識を得るために、「政治・経済」、「日本史」、「世界史」の学習は有用である。また、法制度・政治制度は環境や科学に関する問題と深く関わるため、「基礎的な理科」の学習により自然科学に関する基礎的な知識を予め理解しておくことが望ましい。

次に、「基礎的な数学」の学習は、情報を整理・分析する能力や、法解釈に必要なとされる論理的思考力を養

うことにつながり、「国語」の学習は、さまざまな文献を読みこなすうえで必要な基礎的な読解力や、レポート・論文等を執筆する際に必要な文章構成力を養うことにつながる。さらに、日本のみならず広く国外へ視野を広げ、法制度・政治制度を客観的な視点で分析するために「英語」の学習は有用である。

経済学部

【経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科】

本学部は、日本語・外国語および情報リテラシー教育の充実、基礎から応用までの系統的カリキュラム、少人数演習教育を柱とする教育課程を通じて、企業をはじめとする国内外のあらゆる組織で活躍できる人材の育成を目指しており、教育の「現代化」「現場化」「情報化」の基本方針のもと、学生が入学前からもっていた興味・関心に即した学修ガイドとして8つのコースを設定している（経済学科「経済の歴史と理論」「日本の経済システムと政策」「グローバル経済」、経済ネットワーク学科「地球環境と開発」「地域づくりと福祉」「情報メディア」、経営学科「マネジメント」「会計情報」）。

こうした教育課程の編成内容を理解しつつ、上記8コースの履修を的確に志望するにあたり、経済や経営の現状や歴史に関する、研究・授業・諸活動等の入学前の経験を踏まえた明確な問題意識と、卒業後の将来設計を有し、それを実現するために、在学中の主体的・自発的学修を系統的に計画し、継続的に努力する意欲・能力を有する者を受け入れる。

上記に関して、本学部における基礎的な学修のために「国語」、専門的な学修のために「政治・経済」「日本史」「世界史」「英語」、高度応用的な学修のために「数学」を履修しておくことが望ましい。

人間開発学部

【初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科】

人間開発学部では、自らの資質・能力の向上と人間力育成を求めるとともに、教育者・指導者になることに強い志を持つものを受け入れる。

初等教育学科では、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して、「教育の専門家」を志すものに受験してもらいたい。

健康体育学科では、身体諸機能のあり方に関心を持ち、様々なライフステージにおける人間・健康開発に寄与する指導者を志すものに受験してもらいたい。

子ども支援学科では、幼児教育・保育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して、「幼児教育・保育の専門家」を志すものに受験してもらいたい。

院友子弟等特別選考では、「人間開発」に強い関心を持ち、本学部・学科への志向性が高い学生を求めている。課外活動やグループ活動においても牽引役となり、学生生活全般に意欲的に取り組む姿勢を期待する。学科の別を問わず、幅広く学ぶ意欲を持ち、基礎学力を持っていることが望まれる。そのためにも、日常生活の中に学習する習慣をつけていることが大切である。さらに、志向性および今後の学生生活・卒業後の進路について展望を持っていることが必須条件となろう。

2. 募集人員・出願資格等

(1) 募集人員

学 部	学 科	コース・専攻	募集人員
文学部	日本文学科		6名
	中国文学科		2名
	外国語文化学科		3名
	史学科		3名
	哲学科		1名
神道文化学部	神道文化学科	フレックスA(夜間主)	1名
		フレックスB(昼間主)	1名
法学部	法律学科	法律専攻	3名
		政治専攻	1名
経済学部	経済学科		4名
	経済ネットワーク学科		5名
	経営学科		3名
人間開発学部	初等教育学科		3名
	健康体育学科		3名
	子ども支援学科		3名

※フレックスコースの選択については、P.6を熟読してください。

(2) 趣 旨

この特別選考入学試験制度では、國學院大學への入学を強く希望し、勉学・研究に高い意欲を持つ、全国の院友子弟等を迎え入れることを目的とする。

(3) 出願資格

以下の①～⑧のいずれかに該当する者。

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者。
- ② 高等専門学校の3年次を修了した者、及び平成29年3月修了見込みの者。
- ③ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣が指定した者。
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の課程を修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、及び平成29年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑥ 文部科学大臣が指定した者。
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定試験に合格した者を含む）、及び平成29年3月31日までに合格見込みの者で平成29年3月31日までに18歳に達する者。
- ⑧ 本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月31日までに18歳に達する者。

(4) 応募資格

[1] 院友会の正会員および準会員 [本学 (大学院・専攻科・別科・幼児教育専門学校等を含む) の卒業・修了者、または本学・法人・姉妹法人の現職専任教職員など] の二親等以内の親族 (配偶者・姻族含む) であること。なお、出願資格の確認は提出書類に基づいて大学が行う。

[2] 本学への入学を第1希望とする者。

※特別選考の趣旨に従い、合格後の入学辞退および入学後の他学部・他学科への転部や転科、コース (フレックスA・B) の変更は認めません。

※出願資格等で不明な点がある場合は、必ず入学課 (03-5466-0141) までお問い合わせください。

(5) 併願について

本試験制度内における複数学科・専攻への出願は可能ですが、出願書類は志望学科・専攻それぞれに作成し、提出する必要があります (コピーの提出は不可)。但し、第1次選考 (書類選考) の結果、複数学科・専攻に合格した場合は、**第2次選考への出願は1学科・専攻のみ**となります。なお、第2次選考において、複数学科・専攻へ出願した場合には、全ての第2次出願が無効となりますのでご注意ください。

(試験日の異なる試験制度との併願は可能です。)

(6) 入学検定料
(第2次選考料)

第2次出願時に以下の選考料を納入。**第1次出願時は納入不要**です。

35,000円

※災害救助法適用地域からの入学志願者に対し、入学検定料を免除する制度があります。詳細は第1次選考合格発表時に送付する『第2次出願要項』に記載します。

※一度納入された入学検定料については、いかなる理由があっても返還しませんので、ご注意ください。

3. 通学キャンパス・授業時間帯（平成28年度参考）

文学部・神道文化学部・法学部・経済学部のメインキャンパスは「渋谷キャンパス」、人間開発学部のメインキャンパスは「横浜たまプラーザキャンパス」です。なお、文学部・神道文化学部（フレックスB（昼間主）コース）で、クラスが指定される科目の中には、1年次のみ横浜たまプラーザキャンパスでの受講科目があります。神道文化学部（フレックスA（夜間主）コース）のクラス指定科目については全て渋谷キャンパスでの受講となります。

時 限	渋谷キャンパス							時 限	横浜たまプラーザキャンパス								
	時間	曜日	月	火	水	木	金		土	時間	曜日	月	火	水	木	金	土
1	8:50~10:20							共通	1	9:00~10:30							
2	10:30~12:00			昼開講時間帯					2	10:45~12:15							
3	12:50~14:20							・	3	13:05~14:35							
4	14:30~16:00							・	4	14:50~16:20							
5	16:10~17:40		共通時間帯					・	5	16:35~18:05							
6	17:50~19:20							・	6	18:15~19:45							
7	19:30~21:00			夜開講時間帯				・									

【フレックス開講制について（神道文化学部）】

フレックス（昼夜）開講制は、コースによりクラス指定される科目を除き、授業時間帯やキャンパスを自由に選ぶことができます。

コースは出願時に選択します。選考時には、両方のコースを選考の対象として「どちらも希望する」ことができます。また、どちらかのコースのみに限定して志願することも可能です。なお、「どちらも希望する」を選択した場合の最終合格は、「フレックスA（夜間主）コース」もしくは「フレックスB（昼間主）コース」のいずれか1コースを大学側が任意に指定します。

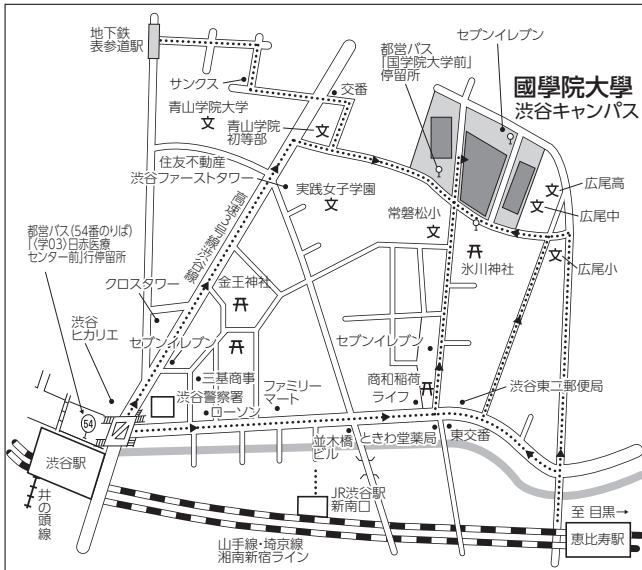
合否の発表は出願時の登録に基づいて行いますので、選択したコースを出願後に変更することは一切認められません。また、入学後のコース変更も認められません。なお、コースが未選択の場合は、「1. どちらも希望する」を選択したものとみなします。

1. 「どちらも希望する」
2. フレックスA（夜間主）コースのみ志願する
3. フレックスB（昼間主）コースのみ志願する

【奨学金制度について】

「フレックスA（夜間主）コース」の入学者が、夜開講時間帯及び共通時間帯だけで受講する場合に対象となる奨学金制度があります。詳細はP.21を参照してください。

渋谷キャンパス



<所在地>〒150-8440

東京都渋谷区東四丁目10-28

<交通機関> 渋谷駅（JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線）から徒歩約13分、
または、
渋谷駅東口バスターミナル(54番のりば)より
都営バス(学03系統)「日赤医療センター前」行き（運賃 現金180円・IC175円）
「国学院大学前」下車

横浜たまプラーザキャンパス

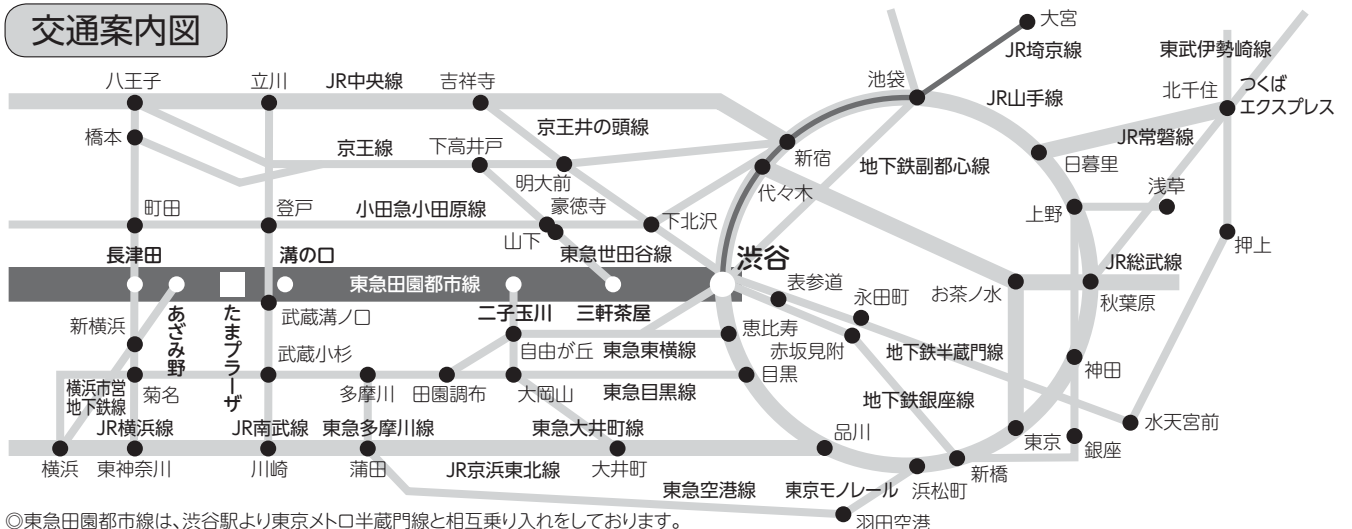


<所在地>〒225-0003

神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22-1

<交通機関> 渋谷駅より東急田園都市線（長津田・中央林間方面行き）にて約25分
（東京メトロ半蔵門線相互乗り入れ）
たまプラーザ駅下車南口より徒歩約5分

交通案内図



◎東急田園都市線は、渋谷駅より東京メトロ半蔵門線と相互乗り入れをしております。

4. 実施スケジュール

第1次出願	第1次出願に必要な書類の提出。 ※入学検定料の納入は不要です。
【出願期間】 平成28年8月25日(木)～9月2日(金) (消印有効)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">① 入学志願票② 各種証明書(高等学校調査書等)<ul style="list-style-type: none">① 関係を証明する書類(戸籍抄本等)② 出願資格を証明する書類(調査書等)③ 【様式1】志望理由書④ 【様式2】レポート⑤ 【様式3】出願資格確認書</div> ※詳細はP.18にてご確認ください。
第1次選考(書類選考)	書類による選考を行い、出願者全員に対し、本人宛に結果を通知(郵送)します(※)。 なお、第1次選考合格者には受験票と『第2次出願要項』を送付します。
【選考結果発表日】 平成28年9月24日(土)	
第2次出願(第1次選考合格者のみ)	第2次出願に必要な書類の提出。 第1次選考合格発表時に送付する『第2次出願要項』に従って入学検定料(35,000円)を納入し、必要書類を大学へ提出してください。
【出願期間】 平成28年10月10日(月)～17日(月) (消印有効)	
第2次選考(第1次選考合格者のみ)	
【試験日】 平成28年11月13日(日) 【集合時刻】 9:30(厳守) 【開始時刻】 10:00～	
※法・経済学部の集合・開始時刻は午前と午後に分かれます。また、 文学部外国語文化学科 の第2次選考筆記試験免除者の集合・開始時刻は 午後 となります。第1次選考合格者に別途通知しますので、ご確認ください。	
【会場】 ●文学部・神道文化学部・法学部・経済学部 <渋谷キャンパス> ●人間開発学部 <横浜たまプラーザキャンパス>	
最終合格発表【選考結果通知発送】*	
平成28年11月24日(木)	
入学手続	
【入学手続期間】 平成28年11月25日(金)～12月2日(金)(消印有効)	

※インターネットによる合格発表(第1次選考合格・最終合格共通)

正式な発表は、本人宛に送付する通知としますが、補助的な手段としてインターネットにて合格者の受験番号を公開します。

発表日の13:00より、下記のアドレスにアクセスしてください(13:00直後はアクセスが集中し、つながりにくいことがあります)。

合格発表専用ホームページのアドレス

<https://www3.kokugakuin.ac.jp>

(スマートフォン版サイトでは閲覧不可。PC版サイトをご覧ください。)

5. 受験から入学手続まで

(1) 受験に関する諸注意

① 開門時刻	9:00～ ※ <u>試験教室には試験開始30分前までに入室</u> してください。入場後は、試験が終了するまで場外に出ることはできません。
② 受験票	<ul style="list-style-type: none"> 出願された方全員に受験票を発送します。第1次選考発表日（書類選考）の3日前になっても受験票が届かない場合や、記載内容に誤りのある場合、また紛失や破損をしてしまった場合には、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。 試験当日は<u>必ず受験票を持参</u>し、案内掲示板にて自分の受験番号を確認のうえ、該当の試験教室に入室してください。 試験中は受験票を机上に掲示してください。
③ 遅刻	<ul style="list-style-type: none"> <u>遅刻は一切認めません</u>。事故などによって交通機関に遅延が生じた場合でも、試験は原則として定刻通り実施します。
④ その他	<ul style="list-style-type: none"> 文学部・神道文化学部・人間開発学部の面接試験は午後からとなりますので、<u>昼食を持参</u>してください。法学部・経済学部の集合・開始時刻は第1次選考合格発表時に通知します。 <u>時計は必ず持参</u>してください（通信・計算機能を備えた時計や携帯電話・スマートフォンの時計機能は使用不可）。また、試験時間中は必ず電子機器類の電源を切ってください。 鉛筆はHB・消しゴムはプラスチック製を使用してください。下敷き・定規・コンパスなどは原則として使用できません。 和歌・格言等が印字された筆記具等は使用できません。 試験教室からの入退室は、試験監督の指示に従ってください。不正行為をした者や監督の注意や指示に従わない者には退室を命じ、以降の受験は一切認めません。 上履きを持参する必要はありません。 試験教室の下見はできません。

(2) 合格発表について（P.8 参照）

出願者（受験者）全員に対し、本人宛に選考の結果を送付します（大学窓口での交付はしません）。第1次選考合格者は所定の手続（第2次出願）を行ってください。なお、配達区域により郵便到着に若干の時間差が生じる場合がありますのでご了承ください。

書類配達時の不在および郵便事情による遅配を理由とした第2次出願期間の延期は一切認めません。また、電話による可否の問い合わせには一切応じません。

(3) 入学手続について

合格通知書とともに送付する振込用紙にて、大学指定口座に学費等納付金を納入し、その振込受領書と入学手続書類一式を、手続期間内に大学宛に郵送（速達・簡易書留）することによって入学手続が完了します。なお、手続書類配達時の不在および郵便事情による遅配を理由とした入学手続の延期は一切認めません。

6. 選考方法

(1) 第1次選考 (書類選考)

[全学科共通] 書類選考 (提出書類のみで選考します)

志望理由書 (1,000字程度)、レポート (課題図書に基づくもの)、各種証明書 (高等学校調査書等) により選考します。

※出願資格の確認を含みます。

平成29年度 院友子弟等特別選考 第1次選考レポート課題

次の本を読み、後の問いに答えなさい。

阿辻哲次著『漢字再入門』(中公新書)

(1) 本書の「1時間目～3時間目」を1,000字程度で要約しなさい。

(2) 本書の「4時間目～ホームルーム」を1,000字程度で要約しなさい。

※【様式2】を使用し、上記(1)については様式2の(1)に、上記(2)については様式2の(2)にそれぞれ記入すること。

(2) 第2次選考

第1次選考合格者に対し、学科ごとに第2次選考を実施します。

文 学 部

[日本文学科]

① 授業の受講とレポート作成 (80分)

授業 (40分) を受け、授業内容に関するレポート (40分、800字程度) を作成する。

② 基礎学力試験 (30分)

古文に関する問題を解答する形式の試験を行う。

③ 面接試験 (約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

[中国文学科]

① 授業の受講とレポート作成 (120分)

授業 (50分) を受け、授業内容に関するレポート (70分、1,000字程度) を作成する。

② 面接試験 (約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

[外国語文化学科]

◎ 第1次選考合格者は、第2次出願[10/10(月)～17(月)消印有効]の際に、入学検定料振込確認票の他に、添付資料目録(【様式6】)を提出する必要があります。

① 筆記試験<英語と400字程度の日本語小論文> (90分)

基礎的な英語力および日本語の文章表現力について試験を行う。

【第2次選考筆記試験の免除について】

次のいずれかを取得した者は、本人の申請に基づいて、第2次選考の筆記試験を免除する。(平成26年4月1日以降に取得したものに限る。)

① 実用英語技能検定 (英検) 準1級以上

② TOEFL® iBT61点以上 (PBT500点) 以上 ※ITPは不可

③ TOEIC® 600点以上 ※IPは不可

第2次選考の筆記試験の免除を申請する場合は、上記資格の証明書の原本 (いずれもコピー並びにWebから印刷したものは不可) を、添付資料目録(【様式6】)に添付してください。

①は主催団体が発行する合格証明書 (和文・英文いずれか1通)

②は “Examinee Score Report”

③は “Official Score Certificate”

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う（英語による質疑応答を含む）。

[史学科]

① 小論文試験（800字程度）と基礎学力試験（合計90分）

小論文試験は英文・漢文・古文の文章の中から1つを選んで読み、与えられた課題について述べる。英文・漢文・古文の文章は、いずれも高校生が平易に読めるものを出题する。なお、採点にあたっては、文章読解ではなく小論文試験として評価・採点する。基礎学力試験は英語・国語・地理歴史の常識的な知識を問う。

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

[哲学科]

① 小論文試験（90分、1,000字程度）

あらかじめ次の課題図書のうち1冊を読んでいることを前提とした試験。課題図書は試験当日持参すること。

課題図書

- ① トゥーゲントハットほか著、鈴木崇夫訳『僕たちの倫理学教室』
(平凡社新書)
- ② 鷲田清一著『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫)

② 面接試験（約20分）

大学での学問・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

神道文化学部

[神道文化学科]

① 授業の受講とレポート作成（120分）

授業（60分）を受け、授業内容に関するレポート（60分、800字程度）を作成する。

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

法 学 部

[法律学科（法律専攻・政治専攻）]

① 自己アピール（5～10分）

いかに自分が國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるかを口頭でアピールする。

② 面接試験（20分程度）

第2次出願の際に提出したレポートの内容に関する質問に回答する。

※レポートを作成する際に利用したコンピュータや文献等は、すべて会場に持ち込むことができます。自己アピールや面接試験でコンピュータやAV機器等の利用を希望する方は、事前に入学課（03-5466-0141）までご連絡ください。なお、電源は提供できませんのでご注意ください。

事前連絡期限：10月28日（金） 17：00まで

◎ 第1次選考合格者は、第2次出願[10/10(月)～17(月)消印有効]の際に、入学検定料振込確認票の他に、次の(1)・(2)の書類を提出する必要があります。

(1) エントリーシート【様式4-法】

「志願理由について」、「あなた自身のことについて」、「社会への関心」という3つの項目につき、所定の形式に従って記入してください。

(2) レポート【様式5】

★ 【様式5】に手書きで記入してください。パソコン等を利用して作成する場合には、A4サイズの内紙に40文字×40行でプリントアウトし、【様式5】を表紙として未記入のまま1枚目に付けて提出してください。

★ レポートを作成するにあたり参照した文献名やウェブページのURL等は、【様式5】の「注(参考文献)」にリストアップしてください。

★ レポート等は、第2次選考の面接の際に必要となりますので、必ずコピーなどを手元に残し、試験当日持参するようにしてください。

日本社会の少子高齢化や人口減少という問題とも関連して、移民受け入れをめぐる議論が活発化しています。そこで、日本社会と移民というテーマについて、以下の内容を含む1,200字～2,000字のレポートを作成してください。

(1)そもそも、移民とはどのような人々でしょうか。難民との異同に配慮して説明してください(字数の目安:120字～220字)。

(2)日本における移民に関するこれまでの状況について、説明してください(字数の目安:200字～300字)。

(3)ドイツやフランスなどでは、どのような移民政策がとられ、どのような問題が生じているか、説明してください(字数の目安240～320字)。

(4)今後の移民受け入れについて、これを認めるべきとする見解と認めるべきではないとする見解が対立しています。両者を具体的に紹介してください(字数の目安:330～580字)。

(5)以上を踏まえて、移民受け入れを認めるべきとする見解と認めるべきではないとする見解のうち、あなたはどちらを支持しますか。理由を付して論じてください。なお、あなたがどちらの見解を支持するかは、合否と直接関係しません(字数の目安:310字～580字)。

経済学部

[経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科]

面接試験(約20分)

最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて5分間程度説明してもらい、次に経済に関する興味や関心事等についての質疑応答を15分間程度行います。

人間開発学部 ※試験会場は横浜たまプラーザキャンパスになります。

◎ 第1次選考合格者は第2次出願[10/10(月)～17(月)消印有効]の際に、入学検定料振込確認票の他に、次の(1)・(2)の書類を提出する必要があります。

(1) エントリーシート【様式4-人間開発】

(2) 添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式6・7】

特定分野の学修に興味関心を持つことを示す資料があれば、資料に番号・資料名をつけ、一覧にまとめた目録を作成してください(添付資料がない場合も該当欄のみ記入し、必ず提出してください)。

添付資料目録には、資格取得や検定試験合格、あるいはスポーツなどで段級位を取得している場合に必ず記載し、証明書のコピーを添付すること。検定試験の例として、次のようなものに合格していることが望ましい。

日本漢字能力検定（漢検）：準2級以上、日本語検定：3級以上、実用英語技能検定（英検）：準2級以上、歴史能力検定（世界史または日本史）：3級以上、実用数学技能検定：準2級以上、理検STEP：2級以上

添付資料目録の裏面は「活動報告書」になっていますので、資料に関する説明や活動等の内容を記入してください（活動が団体によるものである場合は、本人の役割を明確にしてください）。

なお、添付資料は可能な限りA4サイズに統一し、サイズの違うものはA4サイズの用紙に貼付してください。ビデオ・録音テープを資料として提出する際には5分以内に編集してください（提出された書類・資料は返却できません）。

ホチキス留めのできない資料を添付する場合には、資料番号を明記して同封してください。

[初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科]-----

① 小論文試験（説明を含めて90分、1,000字程度）

試験に関する説明（10分）を受けた後、小論文（80分、1,000字程度）を作成する。

② 面接試験（約15分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

③ 実技試験（5分以内）【子ども支援学科のみ】

子ども向けのパフォーマンス（手遊び・うた・お話・遊戯など）を、その意図について簡単に説明したうえで実演すること。用具が必要な場合は各自持参すること。

なお、本学のピアノ等の使用、および電源の提供はできません。

7. 選考のポイント

院友子弟等特別選考入学試験を受験するにあたり、各学部での選考のポイントを熟読し、受験に臨んでください。

【第1次選考】《各学部共通》

「志望理由書」は、國學院大學を志望する理由について、何のために何を学びたいのかなど目的意識を明確にして簡潔にまとめること。「レポート」は、課題図書をよく読んで内容を理解し、指示通りに要領よくまとめられているかを評価する。著者の主張している要点を押さえて、単なる抜き出しに終わることのない構成の整った文章にしてほしい。

【第2次選考】

《文学部》

[日本文学科]

①授業の受講とレポート作成

日本文学科の教員が模擬授業として40分間の授業を行い、その内容を800字程度のレポートとして40分間かけてまとめます。講義内容の中のいくつかの重要ポイントを踏まえているかどうかが採点の基準となります。受講中に要点をメモしておき、重要ポイントをうまく繋げてまとめることが大切です。入学後に大学の授業についていけるかどうかを見極めるための試験です。

②基礎学力試験

本学の日本文学科で学ぶにあたって当然備えていなければならない基礎学力があるかどうかを判断するための試験です。

③面接試験

第1次選考で提出した志望理由書の内容を中心に質問し、学修意欲、目的意識などについて、口頭であらためて確認します。

[中国文学科]

第2次選考では、①授業の受講とレポート作成、②面接試験が課せられます。授業の受講とレポート作成では、まず前半で、授業を受けて各自でノートをとります。そして後半で、各自のノートをもとに授業内容をまとめてレポートとします。授業を聞いてその要点を的確につかめるかがポイントになります。

面接試験のポイントは以下の通りです。

1) 将来の自分のために、中国文学科で何を学びたいと考えていますか。

学ぶことは、自己実現のための第一歩ですが、大学4年間でどのように活用しようと考えているか、その希望が明確であることを期待しています。

2) 中国文学科の教育内容の特色をどのように理解していますか。

中国文学科は、2年次以降、文学研究・中国語教養・中国民俗文化・人文総合の4プログラムを選択して学びます。そのどの部分に期待しているかは、私たちの最も関心のあるところです。「期待と違った」という入学のミスマッチを無くすためにも、事前にホームページや入学案内・入学試験要項で確認し、わからないところは、オープンキャンパスなどで問い合わせる選考に臨んでください。

3) セメスター留学^{*}に興味はありますか。

この希望は入学選考の合格条件ではありませんが、中国文学科では、セメスター留学への参加を推奨していますので、入学前からよく理解しておいてほしいと考えています。1年次の後期には参加の意思確認がありますので、入学前から留学に興味のある方は、積極的にアピールしてください。

※2年次の3～4ヶ月を、中国語圏の大学で学びます。4プログラムいずれを選択しても参加できます(中国語教養プログラムは必修)。

[外国語文化学科]

筆記試験では、基礎的な英語力と日本語の文章表現力が問われます。英語の試験には英文和訳や和文英訳も含まれます。日頃からよく勉強しておいてください。日本語小論文では、あるテーマ（学校の制服を廃止すべきか、英語を公用語にすべきか、等）とその背景説明をした短い文章が課されます。みなさんには、その文章の内容をふまえたうえで、自分の考えを述べてもらいます。問題の所在を的確につかみ、それに対して自分の考えを論理的にわかりやすく表現できているかどうか探点のポイントになります。また、正しい日本語で記述できているかどうか重視します。

面接試験には英語による質疑応答が含まれています。自己紹介や入学後の計画、さらにもっともアピールしたいポイントなどを整理し、それらを英語でもはっきり言えるよう、よく練習しておきましょう。ただし、あまりにも準備してきた内容にばかり気をとられて質問をとり違えたりしないよう、落ち着いて臨むことも重要です。

[史学科]

小論文試験では、出題された英文・漢文・古文の文章をしっかりと読みこなしたうえで250字程度で内容を要約し、それに対する自分の考えなどを550字程度でまとめます。課題文を的確に読み取れているか、また、課題文に対する自分の考えを論理的かつ明快に表現できているかどうか探点の基準になります。日頃から長文の読解力を養うように努力してください。

基礎学力試験では、英語・国語・地理歴史の基礎的な問題が出題されますので、日頃からよく勉強しておいてください。面接試験では、史学科への志望理由や入学後の学生生活への抱負などを、明確かつ簡潔に説明できることが求められます。

[哲学科]

小論文試験では、あらかじめ読むよう示された課題図書の中から扱われている問題について、一つ論述問題が課されます。当然ながら、問いは課題図書の内容をふまえたものとなりますが、小論文は問いの正解のようなものを課題図書の中から探す作業ではありません。選考のポイントとしては、問いを正確に把握しているか、自分なりの意見が形成できているか、論理的に正しい日本語で記述できているか、ということに重視しています。課題図書をただ読むだけでなく、そこに出てくる用語などを調べ、そこからさらに広範囲に知識を拡げ、理解を深めておくことを期待します。

面接試験では、哲学科への志望理由や、入学後の学生生活への抱負などを、明確に説明することが求められます。また、哲学・美学におけるトピックに関する問題についてどう思うか、いくつか問われる時があります。その場合も、とくに固有名詞などに詳しくある必要はなく、問題の所在を把握しているかどうか、そこから論理的に自分なりの意見形成ができているかどうか問われます。朗らかかどうかといった、一般的な面接試験で求められる外交的な要素はあまり重視しません。

《神道文化学部》

[神道文化学科]

神道文化学部では、神道や日本文化・内外の宗教文化に対して、深い関心と前向きな学修意欲を持つ人を求めています。

授業の受講とレポート作成は、みなさんが大学での講義についていけるかを判断するものです。授業のポイントをよくおさえた、誤字や脱字のない正確な文章（800字程度）が作成できるよう、日頃から準備しておきましょう。面接試験では、自分の志望動機・入学後の目標・卒業後の展望等について、筋道を立てて伝えることが重要です。また神道の基礎知識を問う場合もあるので、神道に関わる書籍を前もって自主的に読み込んでおくことも大切です。

《法学部》

【法律学科】

法学部の第1次選考合格者は、第2次出願の際に、入学検定料振込確認票の他に、エントリーシートおよびレポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕を提出する必要があります。

【第2次選考提出書類】

1 エントリーシート

志願理由や自己推薦理由といった、本来であればたくさん書きたいことを、限られたスペースに要領よくまとめて書かなければなりません。そのためには、自分は何のために大学に入って法律や政治を勉強したいのかや、自分のどんなところを評価してもらいたいのかなどを、じっくりと考えて、明確にしておく必要があります。そして、どのように記述したら、読み手に的確に伝えることのできる文章になるかについてもよく考えて記述しましょう。

2 レポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕

ALT型レポートでは、①文献等を正確に読めるか、②収集した情報を一定の基準に従って整理・分類できるか、③整理・分類した情報をテーマに則して的確に分析できるか、そして④分析結果に基づいて論理的に結論を導き出し、明確に表現できるかどうか、という4点が重要になってきます。とはいえ、最初から構えて完璧主義を貫こうとすると挫折しやすいので、ある程度文献を収集した段階で、何はともあれ書いてみることをお勧めします。その後、第三者の視点で欠陥を発見し、文献をもう一度読み直したり、書いた文章を修正したりする——このようなプロセスを何度か繰り返し、完成度を高めていくとよいと思います。

どのような文献から手を付けたらよいかわからないという人のために、参考となる文献やウェブページの例を下表に掲げておきます。これらの文献等を読めばレポートを書くのに困らないはずです。

なお、これらは例であって、必ず参照せよと言っているわけではありませんのでご注意ください。

また、【様式5】の「注（参考文献）」欄に文献名やURLをリストアップする必要があります。その書き方について厳密な要求はしませんが、下表最左列の書き方を真似てみれば問題なく書けるでしょう。

参考となる文献またはウェブページ（例）	データ	備考
『なぜ今、移民問題か [別冊『環』20]』(藤原書店、2014年)	ISBN9784894349780	移民問題をめぐる様々な論点について、主として受け入れ賛成の立場から検討。豊富な資料・データを含む。
毛受敏浩『人口激減－移民は日本に必要である－』(新潮新書)(新潮社、2011年)	ISBN9784106104350	国際交流に携わってきた筆者による移民受け入れの提案。
宮島喬・鈴木江理子『外国人労働者受け入れを問う』[岩波ブックレットNo.916](岩波書店、2014年)	ISBN9784002709161	日本における外国人労働者受け入れの現状について具体的に解説・検討。
岡伸一「外国人労働者受け入れ拡大の政策論点と課題－国際貢献・条件整備・範囲拡大」(『SYNODOS』、2014/10/01) http://synodos.jp/welfare/9705 (最終アクセス 2016年5月30日)		外国人労働者受け入れにともなうコストについて多面的に解説。
児玉卓「移民レポート1 日本の移民問題を考える」(『大和総研リサーチレポート』、2014/11/17) http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141117_009135.pdf (最終アクセス 2016年5月30日) 山崎加津子「移民レポート3 ドイツ：移民政策転換から15年」(『大和総研リサーチレポート』、2014/11/18) http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/world/20141118_009142.pdf (最終アクセス 2016年5月30日)		前者は日本、後者はドイツにおける外国人労働者・移民問題の経緯や現状について解説。

【第2次選考】

1 自己アピール

事前に文章を記述する第1次選考と違って、第2次選考では口頭で説明する力が試されます。まずは、エントリーシートで記述した自己推薦理由などを口頭で説明する自己アピール（プレゼンテーションとも言います）です。5分以上10分以内と時間が限られていますので、要領よく、しかし説得力のあるアピールをすることが肝要です。もっともアピールすべきことは、「あなた自身がいかにか國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるか」ですから、國學院大學の校風などを延々と述べてもあまり評価は高くならない点に注意してください。それから、プレゼンテーションの方法を工夫することも大事です。コンピュータ、A/V機器、フリップなどを使ったプレゼンテーションは、うまくいけば、より効果的なアピールになるでしょうが、必ずそうしなければならないわけではありません。まずは自分のアピールしたい内容をしっかりと決め、それとのバランスを考えて方法を選択した方がよいといえるでしょう。

2 面接試験

面接では、提出したレポート（ALT型レポート）等についての質問を受けることになります。具体的には、あなたのレポートの内容について疑問と思われる点、レポートに書かれていないけれど重要な点、関連する事項についての補足的な説明を求められることになるでしょう。それらに適切に答えるためには、提出した後も、テーマについて継続的に情報を収集し、自分のレポートを見直しておくことが大切です。そして、書いていたときには気づかなかった問題点を発見したり、提出後に新たな事態が生じて事情が違ってきている場合などには、速やかにその点を補足、訂正しておくことが重要です。

《経済学部》

[経済学科・経済ネットワーク学科・経営学科]

面接では、最初に志望理由や学修計画、卒業後の進路などについて説明してもらいます。はっきりと具体的に、分かりやすく説明することがポイントです。

まず、第1次選考で提出した「志望理由書」の内容に関する質問に対する準備のために、第2次選考までの期間に、関連文献や資料などを丁寧に読み込み、正確な知識を増やしておきましょう。

《人間開発学部》

[初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科（共通）]

人間開発学部の第1次選考合格者は、第2次出願の際に、入学検定料振込確認票の他に、エントリーシート【様式4－人間開発】および添付資料目録・活動報告書および添付資料【様式6・7】を提出する必要があります。

人間開発学部としては、「人間の能力開花、開拓」に関心があり、「幼稚園教諭・保育士、小学校教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、あるいは健康やスポーツ分野のリーダーになりたい」という強い意欲を持つ人に入学して欲しいと考えています。「人間開発」という言葉には、さまざまなストレスやプレッシャーなどにより閉じられたままになっている能力や才能を「弾ける」「拓く」「拡がる」ように引き出し、「開花させる」という意味が込められています。それゆえ生徒や指導の対象となる人の「頑張ることを応援する教育」に向けて積極的に勉強する人の意欲を評価したいと思います。

第2次選考においては、小論文試験と面接試験を行います。

小論文試験では、短時間で説明を理解する必要があります。さらに作成に当たっては、「論理的な道筋を立てた内容とすること」「読む人にわかりやすく伝わる文章にすること」に留意してください。

面接試験では、特に本学部・学科への志向性を問います。学生生活、卒業後の進路について、今後の展望を持っていることが望ましい。子ども支援学科の実技試験では、子どもに向けて伝えようとする工夫と意欲が感じられるものであることが望ましい。

8. 第1次出願書類

出願期間

平成28年8月25日(木)～9月2日(金) 消印有効

第1次出願に必要な書類を全てそろえ、本学所定の出願用封筒を使用し、速達・簡易書留で入学課宛に送付してください。

【注意1】 様式1・2は、左上所定位置をホチキスで留め、ひとまとめにしたうえで提出してください。
 なお、記入の際はペンまたはボールペンを使用(鉛筆書き不可)し間違えた場合はホワイトで修正してください。

【注意2】 入学志願票(及び写真票・受験票)・様式1・2は志願者本人が、様式3は「本学卒業(修了)」または「関係法人の現職専任教職員等」が作成してください。

<p>① 入学志願票 【本学所定用紙】</p>	<p>「入学志願票記入例」(P.19～20)を参考に記入してください。なお、入学検定料を振込む必要はありません。志願票・写真票・受験票は切り離さずに提出してください(振込依頼書・振込金兼手数料受取書を提出する必要はありません)。コースの欄はP.6を熟読の上、選択してください。</p>								
<p>② 各種証明書 ※①・②両方を必ず提出してください。 ※出願3ヶ月以内に発行された書類を提出してください。</p>	<p>① 関係を証明する書類(戸籍抄本等) 公的機関から発行された、志願者と本学の卒業(修了)者または、関係法人の現職専任教職員等との関係(二親等以内)を確認することのできる書類・証明書を提出してください。 ※卒業(修了)時と姓が異なる場合には、改姓の過程が記載された書類・証明書を提出してください。</p> <p>② 出願資格を証明する書類(調査書等)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;"> 高等学校(特別支援学校の高等部を含む)又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者 </td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"> 出身学校長が発行した「調査書」(学校所定用紙、開封無効) </td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;"> 高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込者 </td> <td style="padding: 2px;"> 「合格証明書」(合格見込者は「合格見込成績証明書」) </td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;"> 外国における12年の課程を修了した者または修了見込者 </td> <td style="padding: 2px;"> 「修了(見込)証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;"> その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた場合 </td> <td style="padding: 2px;"> 関係する証明書等を提出してください。なお、必要な証明書については本学入学課(03-5466-0141)へお問い合わせください。 </td> </tr> </table>	高等学校(特別支援学校の高等部を含む)又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者	出身学校長が発行した「調査書」(学校所定用紙、開封無効)	高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込者	「合格証明書」(合格見込者は「合格見込成績証明書」)	外国における12年の課程を修了した者または修了見込者	「修了(見込)証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。	その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた場合	関係する証明書等を提出してください。なお、必要な証明書については本学入学課(03-5466-0141)へお問い合わせください。
高等学校(特別支援学校の高等部を含む)又は中等教育学校を卒業した者、及び平成29年3月卒業見込みの者	出身学校長が発行した「調査書」(学校所定用紙、開封無効)								
高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込者	「合格証明書」(合格見込者は「合格見込成績証明書」)								
外国における12年の課程を修了した者または修了見込者	「修了(見込)証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。								
その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた場合	関係する証明書等を提出してください。なお、必要な証明書については本学入学課(03-5466-0141)へお問い合わせください。								
<p>③ 志望理由書 【様式1】</p>	<p>大学での勉強・研究に対する目的意識と意欲を1,000字程度で記入してください。 ※必ず志願者本人が作成してください。</p>								
<p>④ レポート 【様式2】</p>	<p>課題図書(P.10)を読み、レポートを作成してください。 ※必ず志願者本人が作成してください。</p>								
<p>⑤ 出願資格確認書 【様式3】</p>	<p>出願資格を確認するための書類です。該当項目を全て記入のうえ、提出してください。 ※必ず「<u>本学卒業(修了)者</u>」または「<u>関係法人の現職専任教職員等</u>」が作成してください。</p> <p>【1】「志願者」欄 二親等以内の親族(志願者)の志願先学部・学科および氏名を記入してください。</p> <p>【2】「院友」欄 氏名・連絡先等の該当箇所を記入してください。 ※卒業(修了)者の場合は、最終学歴を記入してください。 ※関係法人の専任教職員は、必ず「<u>在職証明書</u>」(各校所定用紙)を提出してください。 ※やむを得ない事由(物故等)で、代筆により提出する場合は、必要事項と合わせて「<u>代筆理由</u>」を明記してください。 ※卒期がわからない場合は、空欄でもかまいません。</p>								

9. 入学志願票記入例 ※写真票・受験票もこれにならって記入してください。

記入例は、神道文化学科でフレックスA（夜間主）コースとフレックスB（昼間主）コースの「どちらも希望する」を選択したのですが、他の学科・コースを選択した場合もこれにならい、ペンまたはボールペンを使用して各票の太枠内を漏れなく記入してください。網かけされている欄は未記入のままでも結構です。なお、提出後の変更は一切認められませんので、ご注意ください。

★第1次出願時には、入学検定料を振込む必要はありません。

（振込依頼書・振込金兼手数料受取書は提出する必要がありませんので、切り取ってください）

★写真票には写真（縦4cm×横3cm）を必ず貼付してください。受験票には52円切手を必ず貼付してください。

★記入を間違えた場合は修正液（ホワイト）を使用しても構いません。

★一度提出した書類等は返しません。

國學院大學（推薦・特別選考）入学志願票

志願票

【年号対照表】

西暦	和暦
1997	平成9
1998	10
1999	11
2000	12
2001	13
2002	14
2003	15
2004	16
2005	17
2006	18
2007	19
2008	20
2009	21
2010	22
2011	23
2012	24
2013	25
2014	26
2015	27
2016	28
2017	29

入試制度
出願する試験制度の番号に○を付け、必要事項を記入してください。

1 公募(AO) 経済学部以外	2 公募(AO) 経済学部	K-ENT方式 1 2 3	3 スポーツ	4 指定校	5 全商協会	6 社会人	7 神道・宗教	8 神職養成	9 神道学専攻科	10 学士	11 一般編入
12 院友子弟	13 セカンドキャリア	14 別科I類	15 別科II類	16 出願種別 1: 神道 2: 宗教	17 外国人留学生	18 系列・協定校(推薦)	19 系列校(選抜)	20 系列編入			

1 記入例に従って該当欄に記入してください（選択項目には該当するものに○を付けてください）。

志願データ

受験番号	※
入試コード	M14A
学部・学科	文 神道文化 法・法律 法律専攻・政治専攻 経済 経済・経済ネットワーク・経営 人間関係 初等教育・健康体育・子ども支援 神道学専攻科・別科神道専修I類・別科神道専修II類
コース	1 どちらも希望する 2 フレックスA(夜間主)のみ 3 フレックスB(昼間主)のみ
氏名	姓 漢字 渋谷 名 カナ ミヤビ 美紗
性別	1 男 2 女
生年月日	1998/1/04
電話	自宅 045-904-7700 携帯 080-9999-9999
志願者住所	神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1 〒225-0003 若木ヒルズ 2203
出身高等学校等	國學院 13550A 1 1 201703

●ボールペンを使用して記入してください。間違えた場合は修正液を使用しても構いません。但し、入学検定料（振込金額）を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。

●振込金額は、入試制度によって異なりますので、必ず要項をご確認ください。

●ATMからの振り込みはできません。必ず銀行等金融機関の窓口で手続を行ってください。

●取扱店の収納印が無いものは無効です。

個人情報取り扱い確認欄
同意しない 同意

入学検定料(振込金額) ¥

収納印 ①/4 入学検定料

空欄(第1次出願時は納入不要)

(1) 記入上の注意

- ① 氏名は常用漢字を使用し、楷書で記入してください。
- ② カナ氏名は濁点・半濁点も1文字として記入してください。
- ③ 選択項目（入試制度・学部・学科・専攻・コース・性別等）は該当するものに○を付けてください。
- ④ 生年月日・卒業年月は必ず西暦で記入し、月日が1桁の場合は、その数字の前に「0」を入れ、2桁で記入してください。
- ⑤ 住所は結果通知等の送付先となりますので、アパート・マンション名まで正確に記入してください（丁目・番地・号は「-」で記入してください）。
- ⑥ 電話番号は市外局番・局番・加入番号それぞれの間を「-」で区切って記入してください。

(2) 各種コード一覧

入試コード	
日本文学科	M11A
中国文学科	M11E
外国語文化学科	M11F
史学科	M11B
哲学科	M11D
神道文化学科	M14A
法律学科（法律専攻）	M12A
法律学科（政治専攻）	M12C
経済学科	M13A
経済ネットワーク学科	M13B
経営学科	M13C
初等教育学科	M15A
健康体育学科	M15B
子ども支援学科	M15C

高等学校等コード
高等学校等の進路指導部または本学入学課（03-5466-0141）へお問い合わせいただくか、本学ホームページでご確認ください。 ※大学入試センター試験のコードと同様です。

課程コード				
課 程	全日制	定時制	通信制	その他
コード	1	2	3	9

学科コード							
学科	普通	商業	工業	農業	英語	総合	その他
コード	1	2	3	4	5	6	9

10. 学費等納付金

(1) 学費等納付金について

平成28年度参考。なお金額については変更となる場合があります。

(単位：円)

学 部 別		文・神道文化・法・経済・人間開発学部			
費 目	納 期	全 納 (年額)	分 納		
			入学手続時	9月 (後期分)	
学 費	入 学 金	260,000	260,000		
	授 業 料	700,000	350,000	350,000	
	施設設備費	201,000	100,500	100,500	
	維持運営費	10,000	10,000		
	小 計	1,171,000	720,500	450,500	
諸 費	若木育成会費	29,000	29,000		
	若木学友会入会金	1,000	1,000		
	若木学友会費	5,300	5,300		
	院友会 (同窓会) 入会金	10,000	10,000		
	文学部・神道文化学部：國學院雑誌代	2,000	2,000		
	法学部：國學院法学代	3,000	3,000		
	経済学部：経済学会費	2,000	2,000		
	人間開発学部：人間開発学会費	3,000	3,000		
	小 計	文 学 部	47,300	47,300	
		神 道 文 化 学 部	47,300	47,300	
法 学 部		48,300	48,300		
経 済 学 部		47,300	47,300		
人 間 開 発 学 部		48,300	48,300		
合 計	文 学 部 神 道 文 化 学 部 経 済 学 部	1,218,300	767,800	450,500	
	法 学 部 人 間 開 発 学 部	1,219,300	768,800	450,500	
			1,218,300		
			1,219,300		

- 備考
1. 教員免許等各種資格の取得を希望する場合は、上記以外に別途費用が必要となります。
 2. 上表のうち、國學院雑誌代（文学部・神道文化学部）については消費税分を含んだ金額となっております。
 3. 文学部中国文学科入学者は、中国学会費2,000円が諸費に加算されます。
 4. 分納した場合は、夏休み中（8月上旬）に後期分の振込用紙を保証人（ご父母）宛に送付します。
 5. 入学後の学費等納付については、毎年4月に振込用紙を保証人（ご父母）宛に送付します。

(2) フレックスコースの学費等納付金について（神道文化学部）

フレックス開講制のいずれのコースに入学しても学費等納付金は同額です。ただし、フレックスA（夜間主）コースの在籍生を対象に、月～金曜日の5～7時限及び土曜日1～7時限の科目のみで授業を履修し、本学の定める出願資格を満たした学生に、40万円を給付する制度「フレックス特別給付奨学金」を設けています。有資格者は入学後所定の期間に出願手続をしてください。詳細は学生生活課（03-5466-0146）にお問い合わせください。

※この奨学金を希望する場合には、出願時に必ず「フレックスA（夜間主）コース」を選択してください。

【國學院大學教育充実資金（維持費）についてのお願い】

本学教学内容の維持・充実をはかるため、新入生の保証人（ご父母）各位に國學院大學教育充実資金（1口20万円）のご寄付をお願いしております。入学後の4月にご案内いたしますので、ぜひ1口以上のご協力をお願い申し上げます。

※本学では入学前（3月まで）の募金活動は行っていません。

11. 入学前学習講座

國學院大學では、推薦・特別選考入学試験による入学者を対象に、合格発表から入学までの期間で「入学前学習講座」を実施しております。

この講座では、早期に実施される推薦・特別選考入学試験から入学までの期間において、学修機会を設けることで、入学後の学修がスムーズなものとなるよう実施しております。受講される場合は受講料を別途ご納入いただくこととはなりますが、本講座の趣旨をご理解いただき、積極的な受講をいただくようお願い申し上げます。

なお、申し込み方法等の詳細については、合格発表時に送付する入学手続き書類にてご案内いたします。

- 1・実施期間：平成28年12月下旬～平成29年3月
- 2・内容：国語・英語（予定）

←ホチキス留め位置

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

<h2 style="font-size: 2em;">志 望 理 由 書</h2>			入 試 コード	M 1
学 部		フリガナ		
学科・専攻		氏 名		

200▲

400▲

キ
リ
ト
リ

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

▲600

▲800

▲1000

キ
リ
ト
リ

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

レポ ー ト		入 試 コード	M 1
学 部		フリガナ	
学科・専攻		氏 名	

(1)

200▲

400▲

キ
リ
ト
リ

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で
記入してください(鉛筆書き不可)。

(2)

200▲

400▲

キ
リ
ト
リ

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

出願資格確認書					入試 コード	M	1			
志願者	学部		フリガナ							
	学科・専攻		氏名							
院友会員・専任教職員										
フリガナ						旧姓		性別		
氏名								男・女		
						生年月日				
志願者との関係 (続柄)						(西暦) 年 月 日				
連絡先	現住所	〒				電話	自宅	- -		
	住所					携帯	- -			
■ 卒業（修了）者記入欄 ■										
①	区分 ○を付けてください。	A. 卒業生 B. 修了者 C. その他 ()								
②	卒業学部・学科 修了した専攻等 ○を付けてください。	学部			研究科		学科			
③	卒業（修了）年・期	年		月		卒業・修了		(第 期)		
■ 専任教職員記入欄 ■ ※関係法人の専任教職員は、必ず「在職証明書」(各校所定用紙)を提出してください。										
①	学校名									
②	所属									
<input type="checkbox"/> 代筆理由 <input type="checkbox"/>										
理由										
代筆者						印	院友との続柄			
							志願者との続柄			
※確認欄										
人事課	たま事務課	教務課	大学院	院友会						

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				法学部のみ提出
法学部	法律専攻		フリガナ	
	政治専攻		氏名	

↑ 志願する専攻に○を付けてください。

志願理由について	<p>あなたが國學院大學法学部法律専攻または政治専攻を志願する理由を書いてください。</p> <p>*その際には、以下の3点を含ませてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたが法学や政治学を学ぶ目的 ・國學院大學法学部法律専攻または政治専攻があなたに適していると思った理由 ・法律専攻または政治専攻の授業にどのように取り組んでいこうと考えているか
----------	---

【第2次出願用】提出書類【様式4-法】

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	<p>あなた自身について、積極的に評価してほしいことを書いてください。 *これまで取り組んできた活動などの「具体的事実」、あなたや他人が捉えている「あなたの性格」などが一つのストーリーとして結びつけられている記述に挑戦してください。</p>
社会への関心	<p>あなたが現在（ALTレポートのテーマ以外に）最も関心を持っている社会的出来事を一点挙げ、それに関してどのようなことを調べ、現在どのような考えを持っているか、書いてください。</p>

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				人間開発学部のみ提出
人間開発 学部	初等教育学科		フリガナ	
	健康体育学科		氏 名	
	子ども支援学科			

↑ 志願する学科に○を付けてください。

志 願 理 由 等 に つ い て	國學院大學・学部選択の理由
	学科選択の理由
	将来の目標
	大学に期待すること
	社会に「人間開発」が必要であると思う理由
	「人間開発」または人づくりのイメージをひとつの熟語で表すとしたらなにになるか

【第2次出願用】提出書類【様式4 一人間開発】

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	「個性的」とはどういうことだと思うか
	自分の個性だと思うこと
	自分について最も評価してほしいところ（他人に誇れる性格、特技、経験など）
	持続的に取り組んできたと自信をもって言える活動とその期間
	ボランティア活動をするとしたらどのような活動をするか
最近の活動について	最近読んだ本のなかで、是非、他人に薦めたいと思うものとその理由
	最近気になっている社会的問題とその理由
	最近あなたが最も努力したと言えること

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

レポ ー ト				法学部のみ提出
法学部	法律専攻	<input type="checkbox"/>	フリガナ	
	政治専攻	<input type="checkbox"/>	氏名	
↑ 志願する専攻に○を付けてください。				
表 題 (題目・書名など)				

(注意) 字数はP.12で必ず確認してください。

キ
リ
ト
リ

200▲

400▲

【第2次出願用】提出書類【様式5】

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

▲600

▲800

▲1000

キ
リ
ト
リ

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

1200▲																				
1400▲																				
1600▲																				

キ
リ
ト
リ

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

添付資料目録				入試 コード	M	1		
学 部		フリガナ		添付資料の有無				
学 科		氏 名		○をつけてください 有・無				

添付資料 番号	資 料 名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

*添付資料が10点を超える場合はこの【様式6】をコピーして使用してください。なお、指示されている学科は添付資料のない方も本様式の太枠部分を記入し、必ず提出してください。

【外国語文化学科を受験する者】

第2次選考筆記試験の免除を希望しますか？

[**希望する** ・ **希望しない**] (○をつけてください)

(免除を希望する方は、各検定試験の結果を証明する書類を添付してください。詳細はP.10を参照してください。)

(別 紙)

(大学記入欄)

整理番号

平成 年 月 日

國學院大學学長 殿

大規模災害に伴う入学検定料特別措置申請書

平成29年度入学試験の受験に際し、入学検定料特別措置の申請をいたします。

志願者	フリガナ名 氏	〒 - 電話	印
	現住所		

保護者(現家計支持者)	フリガナ名 氏	〒 - 電話	印
	現住所		

被災原因	※罹災証明書記載の原因を記入してください。
------	-----------------------

■被災状況（以下の項目から該当するものを○で囲んでください。）

- 被災当時の家計支持者の死亡
- 被災当時の家計支持者が居住する家屋の（ 全壊 ・ 全焼 ・ 流失 ）
- 被災当時の家計支持者が居住する家屋の（ 半壊 ・ 半焼 ・ 一部損壊 ）
- その他（ ）

(注)

- 「罹災証明書」(写し可)と合わせ、出願時に提出してください(出願後の提出不可)。
- 特別措置申請書は必ず志願者及び保護者捺印のうえ、提出してください(複写は不可)。

